



2022年度

# 森への回帰

# ウミガメの森の恵みの好循環と 共創プラットフォームづくり



## ◎にぎやかそとは？

人口減少の進む過疎の町  
であっても、内外から人が  
集い、開業や起業が相次ぐ  
“にぎやかな過疎”の町

森への回帰 ウミガメの森の恵みの地域好循環による “にぎやかそ（にぎやかな過疎）”の加速

山の森（環境）と樵木林業（経済）

ウミガメの森 と命名

海の森（環境）と水産業（経済）

★知の森・美波SDGsリビングラボ（統合取組）

里まち（社会）  
（木づかいと共創のまち）

南海トラフ地震への備え、脱炭素社会、Iot  
共創、地域経済循環、Society5.0、安全安心



# 1. 美波町の地域特性

● 自然の恵みと脅威に寄り添い、工夫と知恵を重ねるまち

● 持続可能な「にぎやかな過疎のまち」の自立モデルを目指す

## 戦略 強みを活かして機会創出を狙う

### SWOT分析

		強み (Strength)	弱み (Weakness)
内部環境		<p>【●経済・●環境】</p> <p>①再生可能な無限の営みの場 (豊かな森と海、強い漁業と林業)</p> <p>②高い再生エネルギーのポテンシャル</p> <p>【●社会】</p> <p>③地域固有文化 (四国巡礼、樺木林業、ウミガメ保護)</p> <p>④コパ 外なまち、顔の見えるコミュニティ</p> <p>⑤旺盛なチャレンジ精神と先進的取組 (サテライトオフィス、デュアルスクール他)</p> <p>⑥進む減災対策と市民意識の変容</p>	<p>【●経済】</p> <p>⑦高い経済・財政の外部依存と外部流出 (財政力指数0.17、経常収支比率94.6%) 経済規模300億/年うち所得流入120億、支出流出130億円)</p> <p>【●社会】</p> <p>⑧さらなる過疎化・限界集落化の進行</p> <p>【●経済・●社会・●環境】</p> <p>⑨風水害・地震災害等の被災リスク</p>
	外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <p>【●経済・●社会・●環境】</p> <p>⑩温暖・多雨な気候風土 (再生可能な無限の恵みを育む森と海)</p> <p>⑪環境志向・意識の高まり</p> <p>⑫SDGs 及び地方創生の推進</p> <p>⑬再評価される里海・里山・里まち文化</p> <p>⑭高まるエネルギー需要と意識</p>	<p>脅威 (Threat)</p> <p>【●経済・●社会・●環境】</p> <p>⑭気候変動の頻発と南海トラフ地震の切迫</p> <p>⑮withコロナの時代</p> <p>⑯緊迫する国際・経済情勢</p>



まちの拠点のひとつ・道の駅日和佐



次世代へのバトンタッチ



南海トラフ地震への備え



元気な高齢者 (健康年齢の延長)



ウミガメ保護の歴史



マリン・アクティビティ



サテライトオフィス群



エネルギー資源 (ウバメガシの森)



# 2. 2030年のあるべき姿

## ● 2030年のあるべき姿

### 持続可能な「にぎやかかそ」の自立モデル都市

**【経済】** 海と山の恵み（水産業と林業）から地域経済の自律好循環を生みだすまち

**【社会】** 多彩な人々が暮らしと生業を共創する、わくわくドキドキな「にぎやかかそ」なまち

**【環境】** 海と山、健全なウミガメの森の環境が循環し、ウミガメ保護を世界に発信するまち

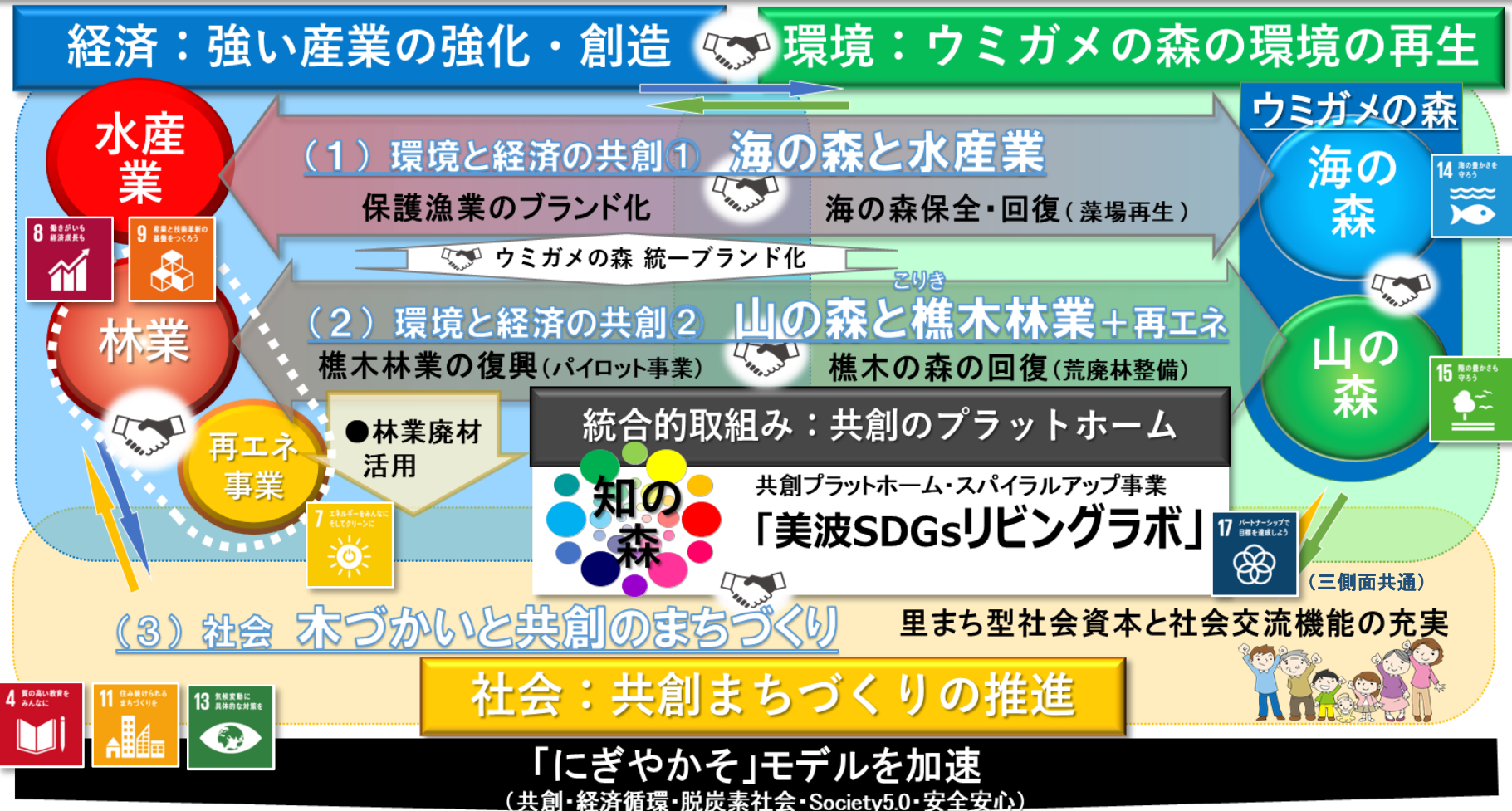


## ● モデル事業のねらい

- **2つの強い産業（海と山）と地産エネルギーを組込む、地域経済循環の仕組と仕掛けづくり**
- **産官学連携と全員（町民）参加の実践を重ねる、共創文化・風土の浸透**

# 3. 自治体SDGsモデル事業の概要(全体像)

- ① 強い水産業と林業を美波町のシンボルである「ウミガメ」の森の恵みととらえ、環境と経済の共創による地域経済循環の自律的な好転を図る。
- ② 山の森の核に樫木林業復興と林業廃材によるエネルギーの地産地消（再エネ）を新たに位置づける。
- ③ 知の森・産官学連携の共創プラットフォーム（美波SDGsリビングラボ）に再編強化し、木づかいと共創のまちづくりなどにより「にぎやかそ」モデルを加速する。





# (1) 環境と経済の共創① 海の森と水産業

経済：強い産業の強化・創造

環境：ウミガメの森の環境の再生

## 課題

- ① 強い水産業の強化による地域経済の好循環化
- ② 経済効果の地域還流と他地域への波及

## 課題

- ① 海域荒廃（磯焼け）からの回復
- ② 再生可能な無限の恵みの場の再認識

## 取組

## 取組

### 水産業

#### 保護漁業のブランド化事業

- ① 地先磯根資源の拡大  
※ 海藻養殖と種苗放流 等
- ② 伊勢海老等の資源管理システムのブランド化

#### 海の森保全・回復事業

- ① 海洋環境の保全と回復の取組み  
※ 食圧対策や資材開発による藻場再生
- ② ウミガメ産卵環境の保全と国際研究

ウミガメの森

海の森

8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



管理漁業



良好な藻場



磯焼け



14 海の豊かさを守ろう



17 パートナーシップで目標を達成しよう



(三側面共通)



【経済と環境の好循環】

● → ● 環境保全資金の還流 / ● → ● 経済活動の源泉(森の恵みの提供)



経済：強い産業の強化・創造

環境：ウミガメの森の環境の再生

課題

- ① 強い林業の強化による地域経済の好循環化
- ② 経済効果の地域還流と他地域への波及

課題

- ① 山林（樵木の森）の回復
- ② 再生可能な無限の恵みの場の再認識

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

取組

## 樵木林業復興パイロット事業

- ① 樵木林業の再興と付加価値商品（高品質の備長炭）の創出
- ② 木育の取組み

取組

## 樵木の森回復（荒廃林整備）事業

- ① 海洋環境の保全と回復の取組み  
※食圧対策や資材開発による藻場再生
- ② ウミガメ産卵環境の保全と国際研究

### 林業

### 再エネ事業

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

17 パートナリプで目標を達成しよう

- ① 林業廃材の活用  
※公共施設等での  
**熱源・マイクロ発電の導入**



【経済と環境の好循環】

環境保全資金の還流

経済活動の源泉(森の恵みの提供)

# (3) 社会 木づかいと共創まちづくり

## 社会：共創まちづくりの推進

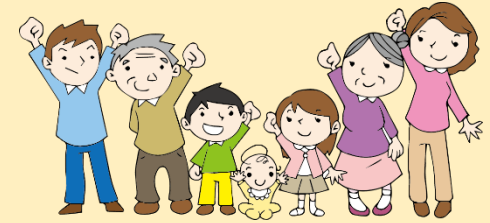
### 課題

- ①「にぎやかそ」なまちづくり
- ②誰もが輝く場・機会づくり



### 取組

- ① 共創によるまちづくり  
※全町民参加＋産官学連携（協定締結大学・企業他）
- ② 里まち型社会資本と社会交流機能の充実
  - ① 木づかいのまち、インフラ整備：IoT・Society5.0推進、防災対策、資金の調達
  - ② 拠点：道の駅・薬王寺門前町（サテライトオフィス）・うみがめ博物館・空き家再生
  - ③ エイジ&ジェンダーフリー社会（女性や高齢者の社会参加、健康な暮らし）



(三側面共通)



協定締結大学



サテライトオフィス（企業）



「ミナマリラボ」



木づかい（木造）施設の例 赤松防災センター

# 4. 三側面をつなぐ統合的取組(補助対象事業)



## 統合的取組 共創のプラットフォーム

### 課題

共創の取組の加速

### 取組

## 共創プラットフォーム・スパイラルアップ事業

- ①「美波SDGsリビングラボ」の設置及び実践活動  
 (美波IoT推進ラボを改組・拡張し設置)
- ② (県)徳島SDGsプラットフォーム等と連携



## 美波SDGsリビングラボの役割

行政 (美波町・徳島県)

●共創・連携・協力の場  
 「美波SDGsリビングラボ」

サテライトオフィス企業  
 大学・各種連携団体

全町民・地元企業等

全事業共通 : 徳島県、大学 (徳島大、徳島文理大、昭和女子大、神奈川大学等)、(一社)四国右下観光局 (地域連携DMO)、サテライトオフィス企業各社、地域金融機関、徳島県信用保証協会、有志・協力企業、町民

## ●活動内容

「市民の生活空間 (Living) 」と「実験場所 (Lab) 」を一体化。美波町を支える多彩なメンバーが関わる提案・共創・実証・自立の場・機会となり、経済・社会・環境の諸活動に深く関わる。

### ●運営方針

美波町は、自然災害 (台風など)、気候変動による地場産業への影響 (藻場焼けなど)、withコロナ時代など、**最初から明確な計画を立てることが困難であり、常に作業工程に大きな変化が起きることが想定される。**したがって、常に、現状を観察して状況を把握しながら、その都度、**迅速に意志を決定して行動 (繰り返し処理)**するOODA (ウーダ) ループ方式で運営する。

※OODAループとは : 思考法の一つ。「観察 : Observe」、「状況把握 : Orient」、「意思決定 : Decide」、「行動 : Act」+「振り返り : Loop」の頭文字によりOODA (ウーダ) ループと呼ぶ。



# 5. 経済、社会、環境の各側面の相乗効果

(統合的取組によって生じる相乗効果)

## 経済：強い産業の強化・創造

取組

- ① 保護漁業のブランド化事業
- ② 樺木林業復興パイロット事業

## 環境：ウミガメの森の環境の再生

取組

- ① 海の森保全・回復事業
- ② 樺木の森回復(荒廃林整備)事業

### 【経済と環境の好循環】 ポイント①

- ① ●経済→●環境 環境保全資金の還流
- ② ●環境→●経済 経済活動の源泉(森の恵み)の提供

統合的取組み



美波SDGsリビングラボ

※三側面の好循環を促進する提案・共創・実証・自立の場・機会

## 社会：共創まちづくりの推進

取組

- ① 共創によるまちづくり: 全町民参加+産官学連携(協定締結大学・企業他)
- ② 里まち型社会資本と社会交流機能の充実

### 【社会と経済の好循環】 ポイント②

- ③ ●社会→●経済  
しごとの場と働き手の増加→事業や経済の拡大
- ④ ●経済→●社会  
所得・雇用拡大→消費・循環の拡大・くらしの向上

### 【環境と社会の好循環】 ポイント③

- ⑤ ●社会→●環境  
行動・意識の変容 環境保全活動の活性化
- ⑥ ●環境→●社会  
地域のコアイメージ・価値向上  
／原風景・原体験・観光価値の向上

# 6. 自律的好循環に向けた事業の実施

知の森・産官学連携の共創プラットフォームを再編強化し「にぎやかそ」モデルを加速させるために、美波SDGsリビングラボ（共創プラットフォーム）のもと、強い水産業と林業を美波町のシンボルであるウミガメの森の恵みととらえ、「海の森」と「山の森」の共鳴による地域経済循環の好転を図る。

## (1) 具体的な取組 共創プラットフォーム「美波SDGsリビングラボ」のしなやかで機動的な活動

1) 自律的好循環形成のためのプラットフォームの設立

●「美波SDGsリビングラボ（美波IoT推進ラボを改組・拡張）」を設立し、人材や情報の交流・蓄積・調整を図るとともに、SDGsに資する事業の開発・実施のハブとして機能することを目指す。

2) 徳島県SDGsプラットフォームとの連携による自律的好循環の向上（PR）

●徳島版SDGsの実装に向けた県施策・オール徳島SDGs推進事業（（仮）徳島県SDGsプラットフォーム、パートナー登録、フォーラム参加）との連携することで、地域のSDGsの取組をPRしながら、投資を呼び込む。

3) 資金調達の円滑化に向けた制度の活用と構築

- ①企業版ふるさと納税の活用
- ②「（県）徳島SDGsパートナー登録制度（仮称）」にともなう金融支援
- ③地域金融機関との連携によるSDGs活動団体に対する金融支援制度の構築
- ④うみがめの森基金の設立およびクラウドファンディングの活用

## (2) 他の地域への普及展開性

1) 水産業を主力とする沿岸部地域

●我が国は海洋大国であり、沿岸部の多くの自治体で漁獲高や収入減少、後継者などの問題が存在している地域

2) 樵木林業の歴史を共有する海部郡や林業技術の再興を模索する地域

- ①樵木林業は海部郡特有であることから、歴史・文化を共有する海部郡の地域
- ②全国に存在する地域独自の林業技術再興を模索する地域

3) 強い産業や特徴的な経済構造を活かし自立社会の実現を目指す地域

●地域経済の構造分析をもとに、強い産業や特徴的な経済構造を活かして地域の経済好循環と自立社会の実現を目指す地域

4) 産官学連携と全員（住民）参加の践を重ね、発展的な活動を進める地域

●多様なステークホルダー（産官学・住民）の関わりにより、地域の自立やにぎわいづくりに取り組み、自主・発展的な活動を進める地域